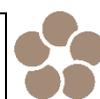




# 『こもろのひろば こぼれ話』



～郷土の事柄をわかりやすく紹介するコーナーです～

## 「一知られざる人物を追うー“木俣正彰”さんってだれ？」

先日「木俣正彰」という人物について知りたい、という相談が図書館に寄せられました。（信濃毎日新聞 2020年3月27日朝刊に関連記事掲載）依頼主の情報によると、明治時代に小諸義塾で美術教師をしていた「三宅克己<sup>みやけこうき</sup>」が小諸で借りた家の家主だったそうです。

そこで詳しく調べてみたところ、三宅克己の自伝『思ひ出づるまま』の中に「家主は隣村の小学校の校長先生」「土族の一家」といった記述がありました。それをヒントに『北佐久郡志 復刻版』で当時の小諸町近隣の村を調べてみると、北大井村と大里村の“校長更迭表”（現在の人事異動表）に「木俣正彰」の名前を発見！そこから北大井尋常小学校と大里尋常小学校で校長をしていた事がわかりました。

さらに、信濃教育会で発刊されている『雑誌信濃教育5 明治24年』に「木俣正彰」の名前で論説を寄稿しており、『長野県教育史 第十一巻 史料編五』の信濃教育会の会員名簿にも「木俣正彰」の名前を見つけました。

以上のことから、「木俣正彰」は小学校の校長を務める先生で、信濃教育会の会員としても活動していたことがわかりました。

三宅克己は明治学院の出身で、島崎藤村の後輩に当たります。それらの縁もあり、明治32年(1899)に小諸にやってきました。その時に慣れない小諸での生活を世話してくれたのが「木俣正彰」でした。三宅克己の自伝にも「私も新夫婦をなにかと親切に世話してくれた」と感謝の思いが綴られています。

明治時代に小諸義塾塾長の木村熊二を中心に、島崎藤村などの多くの文化人が小諸に滞在していたんだって。そんな彼等を地元の色々な人達が支えていたんだね！



こもろのひろば  
担当 キート

### 【参考資料】

『思ひ出づるまま』三宅克己／著（三宅書房 1936年）※国立国会図書館データベースより参考

『北佐久郡志 復刻版』北佐久郡役所／編（千秋社 1977年）

『雑誌信濃教育5 明治24年』信濃教育会／編（1982年）

『長野県教育史 第十一巻 史料編五』長野県教育史刊行会／編（1976年）